

① 実態把握シート

I 班

学校の課題

国語

- 国語A 少し平均で下回
- 国語B 県平均より大きく下回っている
- 国語B 書きの成果に比べて話し 無田舎者は低い
- 話しで聞く、書く、読む、書く 全ての領域に渡って低い

国語が嫌い (K5)

算数以外は (国語) 授業が分らない -7.9

児童主体の授業に かつていない

- 習教
- 県平均 A → 0.3
B → -0.7
 - できる子とできない子 差が大きい
 - △公倍数 既習を 生かせない
 - 計算力 帯分

主体的な学び

記述

数学的な考え方

自分で考え方を下す X
主体的な学びの仕組み

勉強が好きではない
全部の教科

4.5年生 算数の 代

低学年に支援を 要する児童が多い

自分の考えを表現 (話し) X 表現 筋道

表現が苦手

現

△記述力

「書く」「話す」「読む」の 言語活動の充実と重点

算数以外で表現(話し) の場が少い

記述力に 特に関心

学び合い

△見通しをわか

思考を深める活動に つながり

学び合いの意識が弱い

ペアやグループ活動を 有効に取り入れる

発表の機会が少い

2つの文に比べて 読解力 弱い

また、学級経営

- 終末のふり返りが ない
- 発表を促している 少ない X

課題をまとめると...

- ・学び合いにこそか、それぞれの力に 応じていない。(教師が一方的に 進め)
- ↓
- ・基、基本の定着が 必要。 ・表現の場がない

研究主題

自分の考えを表現する子の育成

研究教科

小学校:国語・算数

中学校:全教科

目指す子供の姿

- 自分の考えをもち、根拠や筋道を明確にして説明する子
- 友だちとかわり合いながら学びを深める子
- 習得した知識や技能を生かし、主体的に取り組む子

目指す授業像

自分の考えをもち、
自分から伝え合う授業

研究の重点(柱) 2つ~3つ

A 授業改善

B

C

A:授業改善の視点(3つ程度)

- ① 考える、必然性のある課題設定
- ② 学び合う場の設定
- ③ 個に返す場の設定

※以下は、上記の重点A:「授業改善の視点」の中から1つまたは2つ選び検討してください。

A:授業改善の視点に対する教師の具体的手立て

1番
国語

つけに^{考えに}いかに合っていて考える、必然性のある課題

- ・生活に生かせるということを共有して課題と提示
- ・考えにくくなる、話しにくくなる課題

算数

- ・生活に結びつくような課題
- ・?が生じる課題
- ・多様な考え方ができる課題

教材研究

A:授業改善の視点に対する教師の具体的手立て

3番

- ・終末に、適用題とふり返り(分かったこと、今後は生かそうよと)
- 国語でも、(ま)のふり返りを、

ただし、国語科に関して、苦手意識が強いので、
個に返す場の工夫と、板書に記すなどの手立てを。

③ 計画シート

I 班

月	内容		
4月	研究方針の 提案	目指す授業像の 共通理解	学力調査の 自校採点
5月	模擬授業	提案授業	講師招聘
6月	模擬授業	研究授業	要請訪問
7月	検証		
8月	学力向上プラン の策定		
9月	模擬授業	研究授業	
10月	模擬授業	研究授業	
11月	模擬授業	研究授業	学力向上プラン の見直し
12月	模擬授業	研究授業	検証
1月			
2月	次年度の 計画	模擬	研究授業
3月			

学力調査問題の
出題傾向の把握

学力向上プラン
の策定

学力向上プラン
の見直し